夕刊
小名濱新聞
三月八日
發行兼編輯印刷人　伊藤隆次
福島縣平南町六七
發行所　常磐新聞社
日刊但日曜祭日翌日休刊
一部二錢　一ヶ月　三十錢
廣告料　一行　五十錢

クスリ・資生堂
小名濱町
電一四七

水産講習所卒業式と縣下優良漁船表彰式
十八日、小名濱水産講習所で

小名濱町縣水産試驗場附屬水産講習所の卒業證書授與式は來る十八日擧行される當日は知事並に學務部長が臨席するはずで卒業式終了後、縣水産會主催の縣下優良漁船に對す表彰式が行はれるが遠洋漁船並に沿岸漁船の一位は次の通りである

◆遠洋漁船　江名町清勝丸（佐藤助五郎氏所有）鰹一七五、〇〇〇尾、マグロ一〇〇〇尾、秋刀魚一一〇〇、〇〇〇尾金額合計五二、九五二圓五十一錢

◆沿岸漁船　小名濱町共德丸（柳内房吉氏所有）鰯一七一、五四一圓

鳳城炭礦出水事件
社大黨、議會で質問か

既報　坑夫九名を溺死せしめた山田村鳳城炭礦の出水事件についてはその後懸命な排水作業を續け未だ原因も調査出來ず遭難死體の收容も見込つかぬ狀態であるが社會大衆黨縣支部では郡甲市議の田中利勝氏を現地に特派現場を視察せしめたが同氏の調査によれば出水の原因が軍需景氣にあふられた炭礦側が無理な採炭を續けた爲めらしいことが略判明したので同氏はこの旨本部に報告、目下開會中の衆議院で當局の監督取締に就いて質問材料とした、なほ仙臺鑛山監督局からは奥田技師が出張原因その他に就き詳細調査を進めてゐる

産馬組合總會　石城産馬蓄産組合では來る十一日評議員會、十二日總會を平

監督局出張所
平か湯本に設置

商工省では昭和十三年を期し各鑛山の增産計畫助成の反面、積極的に鑛山災害防止に乘り出すことになり所要の新規豫算を計上することになつたがこれが通過の曉には各鑛山監督局管内の重要箇所に出張所が新設され當時災害防止及び現地指導がなされることになる

出張所は先づ第一段階として炭礦地方に設けられる豫定で仙臺管内にも一ヶ所を數へられてゐる、仙臺監督局では目下鋭意その準備を進めてゐるが結局常磐炭礦地帯に落着くべく、平市及び湯本町が候補地にあげられてゐる

岡小名に大變電所
工場地帯小名濱に備へ
大日本電力が建設を急ぐ

二本松電氣の姉妹會社大日本電力にては今回玉川村岡小名間小舘に一大變電所を建設するが四月末迄には完成の豫定である、小名濱町には日本水素が一萬五千キロの火力發電所を自家用として建設中にあり、大日本電力の變電所も二本松電氣と協調の上、水素工業への送電の備へともなり且つ小名濱の一般需要家の爲めにも此の不便も感じさせない對應策とも見るべく原動力方面は萬事の備へがせい備するわけである

落磐死　湯本町入山炭礦坑夫武藤勘三郎（二六）は五日夜十一時頃六坑々内で落磐で重傷、附屬病院に擔ぎ込んだが六日死亡した

中堅農民講習會終了　石城郡農會主催中堅農民講習會は昨六日終了した、修了證授與式は二十一日午前十時から平團体事務所で擧行

名刹安立寺をめぐる紛爭
平署の調停で近く解決

玉川村大字岡小名の名刹安立寺は住職渡邊文榮氏と小名濱町柳内勇氏との間に寺財産水田六反歩の小作料をめぐり數年間紛爭をつゞけてゐたが八日平署人事相談所の調停により双方白紙に還り同署に一任することになつた、近く圓滿な解決を見る模樣である

同寺は六百五十年前に日連上人の高弟日辨上人が開基したと云はれる地方の名刹であるが壇家が中野喜博次氏外二名となつて住職も逃げ出し以來無住寺のまゝ長らく荒廢してゐたものを昭和七年現住職渡邊師が來山したものである

凱旋二勇士を招き
〝實戰談を聽くの會〟
三月十日、小名濱軍友會の催し

小名濱軍友會にては七日午後一時より委員會を役場ろう上に開催會長野崎亟之助氏副會長小川爲八郎氏などの老人組が十名會合し三月十日の陸軍記念日の催しについて協議を凝らした。大体に於て軍人分會と行動を共にする事にになつたが、特に日露以來の傷病兵を慰問する事と、今後事變により戰傷兵として歸還せる渡邊勘右衛門氏並に歸還兵小林潤一郎氏を煩し「實戰談を聽くの會」を催す事になつた

鐵道職員異動

東京鐵道局管内の職員異動は七日發令された、地方關係左の如し

泉驛長　山崎仲治
磯原驛長　植田驛長　島田竹松
水戸運輸事務所　湯本驛長　庄司作藏
同上　茂木驛長　富山盛壽
植田驛長　岩間驛長　友部弘勇
泉驛長　勝田驛長　平野新三郎
湯本驛長

軍用候補馬鍛錬
（江名、小名濱兩町で實施）

江名及び小名濱町では郡下における軍用候補馬鍛錬會の普及强化の機運に順應し兩町提携して鍛錬會を催すことになつた、兩町の候補馬は約二十頭で來る十二日第一回の鍛錬を小名濱海岸で實施し爾後は月二回宛行ふはずである

指導員坂本獸醫、吉田政吉、班長志賀要平、副班長吉田正男　幹事小名濱兵事主任、江名兵事主任

母子三名と抱酌婦送局　内郷村綴一の坪料理店齊藤テフ（五〇）内縁の夫四家鶴松（五九）及びテフの長女ヤイ子（一六）の三名は抱酌婦金子ヨシ（四〇）に對する不法かん禁並に傷害罪で平署に取調べ中であつたが七日送檢された

また被害者ヨシは主人、同僚、及び登樓客から前後十數回に亘り百數十圓の窃盜をなしたこと發覺八日これまた送檢

▲天氣豫報
今晩　東の風曇
明日　東の風曇後晴

生徒募集
◎願書受附　三月三十日迄
本科（二ヶ年卒業）一年五十名
裁縫專修科（二ヶ年卒業）一年百名
師範科（一ヶ年卒業）二十名
專攻科（一ヶ年卒業）三十名
本科、裁縫專修科二年補欠入學　若干名
「附設」洋裁科（六ヶ月修了）若干名
◎詳細ハ學則請求ノコト
文部大臣認可　藤田女學校
平市田町（電話三二八番）

産院完備入院隨時
愛婦福島支部囑托
健康保險指定
産婆　近藤かぬ
電話　三番
小名濱町後宿

巷の聲

これは某技師の宣託

實社界に立つ男性は、この心組で對處しなければならぬ、とこんな事を宣託してゐる、男子青年ともなれば實社界相と云ふものをあらゆる角度より觀察しなければならぬ、それには花柳界とは切つても切れぬ男性の道場であるから三十歳位迄はよう藍時代として大に体驗も試練も必要である、而して社界の表裏を完全にどう察しなければならぬ、(ドラ息子の域に達しなければならぬ事になる)三十才より四十五才位迄は男性の魅惑時代として、花柳界を舞台とし、女性を手玉に取り大いに活動すべき得意時代でなければならぬ、四十五才以上ともなれば身心共に圓熟時代である、活舞台の花柳界も相手を守りして氣嫌をとり面白く遊ぶ如くに、實社界の上手な操縦者とならねばならぬ、と人生哲理のような講釋をして收つてゐるが、それは彼氏の人生行路を叙したもので彼氏は斯くして今日の立場と富とをかち得た人である彼氏とは誰か粋人方面では先刻御承知であろう。

×

人氣者、若竹の五郎裙

宴會で人氣を、とると、云ふ事は利巧な泳ぎ方で近來の小名濱花柳界の人氣ものと言へば若竹の五郎裙を擧げる事が出來る、彼女は嬉々として邪氣(艶な魅惑いない意味)がなく小娘に接する氣分であらゆる階級より大した持て方、某氏の奥様に似てると囃されれば顔を覆ひ、尻を丸めて嬉々として騷ぐ邊は本當の小娘だ年はと聞けば芳齡正に二十三才と云ふから彼女も意志よりする素振りで、あの手で男性を全部トリコにする魂膽なのかも知れぬ

物金 尾問 久 洋和 鐵銅
店商屋釜
平市 電話九番 九九番

平市十五丁目
平病院
醫學博士 鈴木定藏
電話六四一番

井坂醫院
平市田町
電五五九

内科、小兒科、婦人科、花病科
久保田醫院
小名濱町
電話二二番

銘酒 玉の井
長瀬彰義讓造元
玉川村林城

淺春の裝ひが出來ました。楚々たる女給のサービスで、是非……々々
カフエー 末廣へ
小名濱下横町

專門
花柳病科
泌尿器科
皮膚科
江尻医院
入院隨時
醫學博士 江尻伊三郎
平市田町電話六九一番

◆調味料として最も經濟的で滋養と美味に富み便利なる削節を御用命願ひ上げます
削魚節製造元
卸小賣
馬上與八商店
小名濱小學校前

外科、花柳病科
内科、小兒科
レントゲン科
草野醫院
▼入院隨意▲
小名濱町中町
電話一七三番

藥……衛生材料
寶屋藥局
小名濱町

コークス販賣
弊店儀今回東京平瓦斯コークス小名濱方部一手販賣店としてコークスの販賣をする事となりました皆さま御承知の如くコークスは優良なる石炭を原料として製せられる物でありまして無煙無臭、火力強く、至極經濟的で一般御家庭の燃料としては勿論廣く各位の御便利を圖り御需用に副ひたいと存じて居ります
磐城炭礦株式會社代理店
東京平瓦斯コークス小名濱方部一手販賣店
小倉石油株式會社揮發油販賣店
福祿ストーブ取次店
小松重兵衛商店
小名濱町下町 電話六五番

産科婦人料 專門 森口德郎
▼夜間診療に從事す
避姙法相談に應じます
☒毎日午前九時より診療に從事す【夜間診療】
小名濱町船引場登記所先
入院手術需應
産室完備
森口醫院
電話二〇一番

内科外科
小兒科
花柳病科
平川醫院
江名町 電話二六番

齒科一般
佐々木齒科醫院
日本齒科醫學士
佐々木三郎
泉村小學校前・電話一番

大正火災保險株式會社
三井生命保險株式會社
代理店
磐城水産工業株式會社
小名濱町築港内
電話一四四番

一歩二歩と健實なる歩みを續ける庶民金融界の王座
磐城無盡を御活用下さい
小名濱町出張所
小川爲八郎

平市驛前
高柳醫院
電三三六